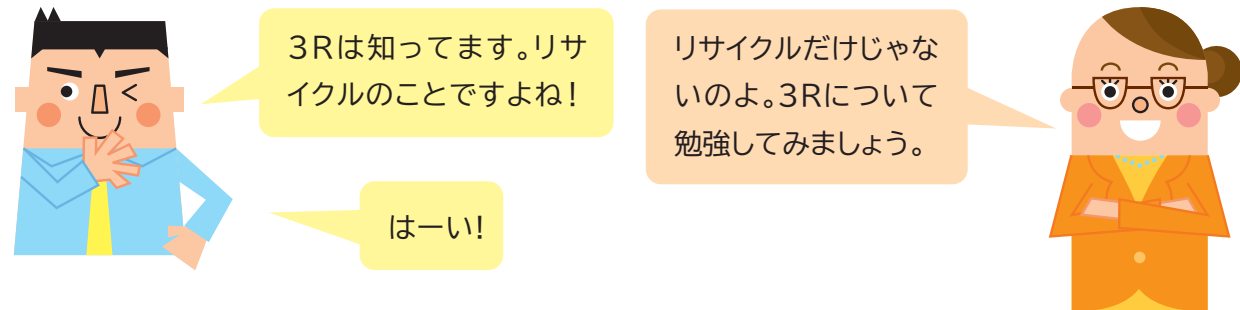


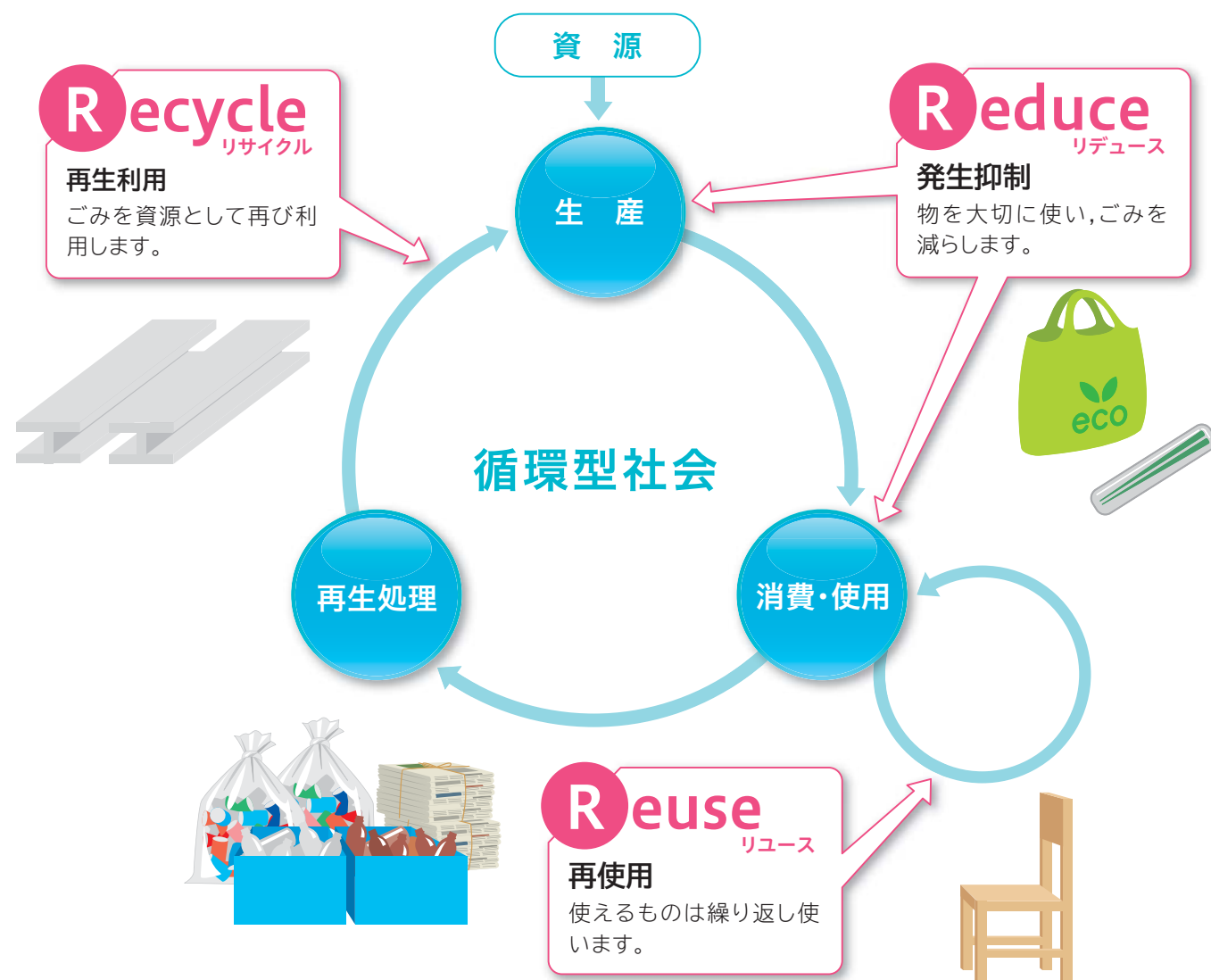
# 事業者による3Rの取組



## 3Rの取組

3Rとは、ごみを減らすとともに循環型社会を形成するために必要な3つの要素である、Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル)の頭文字Rをとった言葉です。

具体的には、ごみになるものを減らし(リデュース)、使えるものは繰り返し使い(リユース)、使えなくなったものを資源として再び利用する(リサイクル)ことを指します。



## 減量は事業者の努力義務

事業者は、積極的にリサイクルなどに取り組み、廃棄物の減量に努める必要があります。

### 減量の基本は紙類

事業系一般廃棄物の中には、資源としてリサイクルできる紙類が約2割も含まれています。紙類は分別も容易なので、「簡単に捨てない!」という意識を持って、再生利用を進めましょう。

紙類のリサイクルは、減量の第一歩!



### リサイクルできる紙類の例



※紙類の取扱いについては、委託業者に確認してください。

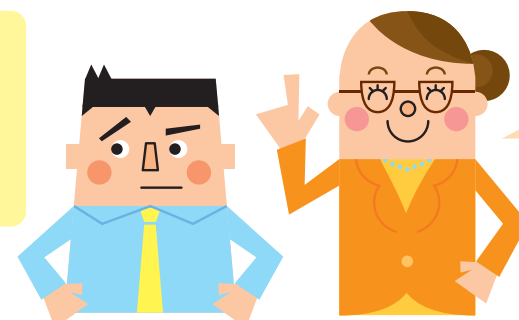
### 分別や収集方法のルールを決めて、再生利用に努めましょう。

せっかく分別した紙類も、廃棄物として処理されるとリサイクルにはつながりません。資源として収集してもらうために、分別や保管の方法について委託業者とよく相談しましょう。



### ただし君の質問 その4

缶、びん、ペットボトルはどのような出し方をすればいいのですか？



産業廃棄物処理業者や資源回収業者に委託して、リサイクルしてもらうのよ。